

ハンガリーのピアノ教育における即興指導法 アパジ・マーリア『ピアノの夢』から

降矢美彌子（宮城教育大学）
岩淵摂子（仙台白百合女子大学）

ハンガリーのピアノ教師、アパジ・マーリア（Apagyí Mária:1941- ）は、2008年、将来にわたって幅広い視野をもつ人間の育成を目的として、絵画・建築・数学・詩などを総合し、即興を重視するハンガリーのピアノ教科書『ピアノの夢（Zongorálom）』全3巻を著した。アパジは、ハンガリーのピアノ教育における即興演奏指導のリーダーである。筆者らは、アパジのピアノ教育理念と『ピアノの夢』の独創性に感銘をうけ、教科書の翻訳とアパジへの取材を元に、第41回大会と第42回大会において、その理念や特徴、具体的な指導法について発表を行った。

本発表では、アパジのピアノ教育の指導の根幹をなす、即興演奏の指導法について、翻訳と本年9月に初旬に行った即興指導に特化した取材から、より詳細な具体的指導法の全体像を明らかにする。

『ピアノの夢』に述べられた即興の指導法は、従来の指導法とは異なって、音楽の構成要素の1音から始まり、沢山の即興体験の積み重ねの後に、ジャズや旋法による即興へと進むが、課題は実に段階的に細密に組み立てられている。音そのものがもつ高低、強弱、音色、他の音との関連性に注目するところから始まる即興指導は音楽に対する本質的なアプローチとも言えよう。

一例として『ピアノの夢』第1巻の最初の即興の課題について記す。タイトルは、「即興の課題：音を音の響きを作る」とあり、「簡単な楽器やピアノを使って、音と友達になり、音で遊ぶ」という説明書きの元に以下の16の課題が書かれている。1. それ

ぞれの音の性質に基づいて比べる。2.異なる音色の音を出す。3.異なる強さの音を出す。4.異なる高さの音を出す。5.異なる長さの音を出す。6.鳴らされた音とその間にある沈黙に注目する。7.同じやり方で鳴らされた音(例えば:同じ音色 同じ強さ; 同じ高さ 同じ長さ など...)。8.今までの課題の色々な組み合わせでできた音。9.実際にある音に基づいて、対比 移り変わり のようなもの:音色の、音の強さの、音の高さの、音の長さの。10.音を出すものを移り変わりに応用、11.与えられた1つの音(同じ高さ)による対比,移り変わり、12.与えられた1つの音(オクターヴ)による対比,移り変わり、13.与えられた1つの音とその周り 与えられた1つの音を鳴らすことと、その他の音にも一緒に注目すること、14.楽器の導入:上記のことをまとめた音の流れ、楽器の音の響きの可能性の導入に関連して 鳴らすことまで、15.音による自由な遊び、上記の課題を作ること、16.音による会話、生徒と先生、生徒同士の遊び、4手で、6手で。全体の注意書きとして「ピアノを始める時に役に立つのは 正しい手の位置をつかむために たくさんの黒鍵を使うことである。」とある。

このように始まるアパジの即興指導法は、全3巻の30ページにわたって段階的に細密に記されているのである。